

櫻谷神社社報

発行日 平成十三年七月十五日

・保寶山)への信仰も篤かつたようです。

面美様
(めめよしさま)

すがわらのみちざねのみこと
菅原道真命（天神様）

学問の神様、厄除け、
太宰府天満宮の梅にまつ

災難除けの神様。
ちなみ、天神様を祭るお外

撫でた手で顔をこする
珍しい線彫りの石の面
のは今から約五〇〇年ほど
長い年月多くの人に撫

と美人になれる。
と顔の輪郭から彫られた
と前といわれています。
でられつけた結果、鰯



榛名神社由緒

仰神が広められ、榛名山の猿掛が活動してより榛名神社の信崇められ、長七年（一二二五年）には道田・春名尊霊守とて建立が同じく三年、正徳八年（一二八八年）に正徳鐘が鋲造され奉納されたという記述があります。
一九二八年、上野国神名帳に貢高大明神（武尊様、武尊大明神）
とある。武尊様は光明神（武尊様の山名から御みえ、また
武尊様の山名から御みえ、また）と云ふ。水タケ山の名から御みえ、また
あります。そこで、石を持つて現在の沼田公園内にお祭りしたと
あります。
その後、戦国時代となり、沼田鬼先頭頼泰は武尊
様の山に「新市城」（倉内城）を築いてそこを拠点とし、
享禄二年（一二五〇年）上を武尊大明神で主神とせ
る天満宮として現在の天神台寺が改築
殿跡を建立し、元和元年（一二六一年）に至つて離合が発令され、
明治五年（一八七二年）に神仏分離の訴訟により、上之町等六ヶ
町は須賀神社の氏子に改め、現在の氏子区域となつて
います。

埴山姫命 (はなわらやまひめのみこと)
開運・五穀饗應・商先繁盛の神様。榛名山榛名神社
伊耶那美神が火之迦那美神・土主の神生みになつて、
きの後も爲かれて病み弱く、と療成した神様。
土の神様として信仰が築くまた、榛名山は、改
えられた山場でありました。

9. つき。商売繁盛の神様と
御津國の「国造り」が完成し、
天照大神をお祀り下さい」と
建てて私をお祀りして貰いました。

櫻名神社ご利益ガイド

発行人　金子浩隆
以後、明治六年葬社に定められ、昭和三年縣社に昇格。葬後は宗教法人となりました。また、諏訪大社は古来御社の如くに鎮座され、宮殿年間に御神体の神社への遷座せられましたが、明治四年元日合祀されました。治四年、年号記されました。

平には梅の木が植えられていました。そこで「梅の木」といふ名前がついたのです。
平安時代の学者が政治家になりました。その名前を「さゆ」にしました。
に藤原、一族のねたみにあつて、「九州の太宰府」にあります。
遷され、落葉で生えてきました。それで「落葉生」といふ名前になりました。
都では、落葉で生えてきた人の命が死ぬなど、道のたりで恐れられました。
りを恐れ、神社として各地に度々社を建て、たそぎで祀りました。
です。祀られたからはたちもおさまり、人々の心を治めました。
護る神として信仰を集めました。
たけみかわのかわ

自然との共生

社頭講話

左近貞京をうたふ

社頭講話

自然との共生

棟名神社にご利益ガイド

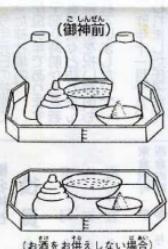
棟名神社にはご本殿に座す四柱の御祭神の他、十二柱の神様があなたへ強く信仰させます。至つておりまます。

今回は、棟名さまの御祭神の「利益」を紹介させていただきます。たまに神像を変えて現在に至つております代えの、で、御利益だからこそ利益だよー概して語らうことはできません。たとえば、この神様は武神軍神としてその性格を変えた例は多あります。

しかししながら、神様は皆様からのお問い合わせにより神威を増し、益々御守護下さいます。

様々からの御願いを守ります。神様に祈ることによって、ありがとうございましたのお痛みを受け、益々発展することができるのです。なによりも心をこめた祈りが肝心なのです。

を郷 でり
いる。古来は、日本人は山に入るときにはその危險性に恐怖、注意を怠らぬ、山から畏る心を抱く。自然に対する畏怖の念は、朝鮮の感應、謝るの念等、すべての念を信仰として、山の自然を神とし、海も空も神までの自然が信仰の対象であり、そこには神様の存在を感じた。日本は、神道によって、新時代、新世紀折々の豊かな自然に恵まれた日本は、自然との共生を実現して、悠久の古より、自然との共生を果たしてきたことは、間違いない。だから、うなづいていふ人もいる。しかし、この時代は、技術の時代であつたといふ人もいる。西暦一千年後であるがこの時代の節目について考えてみた。日本人の心の中に古から存在した「自然との共生」を今一度尋ねてみたい。



知つておいた